

第7回 留学生里親・里子だより

●「留学生さとおやの会事務局」 〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央1-6-20 (株)サクラクレパス内
TEL: (06) 6910-8800 FAX: (06) 6910-8837 2007年9月発行

2007年対面の会

司会を終えて ～いつもと反対の席から～

田仲八重子



今年で第5回となります里親・里子対面の会が、7月7日(土)大阪商工会議所で行われました。そこで司会というお役を頂きました。司会ということになりますと、第1回からされている日下

さんや、新年の交流パーティーでの織畠さんというベテランがいっぱいいます。いつもすらすらきれいに流れて行くのを見ておりましたが、いざ、式次第と名前のリストを頂いてみますと、体中を緊張感が走りました。踊りの会での「人前」は平気でいられるのに、初めてのことというのはやはり、人にこんなに緊張を与えるものかと思っておりました。おそらく、まわりの方にも分かるほどだったのでしょね。「何事も経験だから」とか「アットホームな雰囲気です」とかエールを頂きました。大阪市関市長からのメッセージ、大阪商工会議所の理事・国際部長上月部長よりのご挨拶、野村会頭よりの祝電も頂きました。途中、この日にお誕生日を迎えられた里子の金昭妍さんに里親の小川さんが用意されたお祝いの花束を贈ることができましたし、周りの方のサポートを頂きながら何とか終わることができました。日本語学校OBの可玉琴さんには、中国語の発音でお手伝いいただきました。彼女の方が落ち着いていて終始にこやかで私の方が気分的に助けていただいた感じでした。そのあとの懇談会でも、彼女ともすぐに意気投合し、今年の里子の呉良さんと3人で司会の話で盛り上がっていました。

私の地元の高槻では8月4,5日に大きな夏祭りがあり、市役所を中心に歌や踊りパレードや夜店がたくさん出ます。5日はご近所の方たちが、料理・飲み物持ちよりで集まることになっています。

今年もこの日に同窓会のように今までの我が家の里子たちも集まり、料理を作ってテーブル出しの準備を



手伝ってくれました。もう何回目かなのでご近所の方たちとも顔見知りとなり、遅くまで騒いでおりました。一人一人深い話という雰囲気ではありませんでしたが、日頃無理しながら一人で頑張っている里子達。楽しいだけの集まりがあっても良いのかなとも思いました。個人的な話は、一対一で会うようにしようと思っています。ここまで来るのに色々な段階がありました。

最後に来年度の司会のことですが、私でもサポートを頂いてできたのですから、どなたか「私にも・・・」と思われる方がいらしたら申し出られてくれましたら嬉しく思います。一人一人の力でこの「さとおやの会」を盛り立てていけたら最高だと思います。

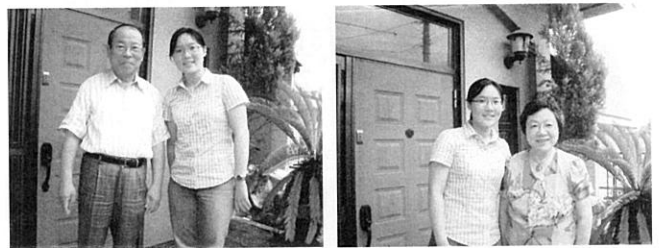


里親の想い

楽しく長く

前田和子

いつの頃から里親の会に加えていただいたか思い出せませんが、色々な里子さんとの交わりが私たちの日常に豊かさを与えてくださった事、異文化に触れ勉強になった事をうれしく思い、今まであまり問題のあるような方はなく、お互いに楽しい時をつくれた事を感謝しています。妻子を中国から呼んで苦しい中勉強に励まれた留学生や、彼氏と別れ別れの留学生生活をした里子、今度はどんな環境の方かしらと今年の面接会に臨みました。台湾出身の高青菁さん、とても素敵な方です。今、日本の若者が失いつつある礼儀作法をしっかり身につけ、とても明るい素直な性格に、神様からの贈り物?と感謝しています。あれからたった2回の出会いですが、このご縁を大切に出来ればずっと続けていければうれしいなと主人と話し合っています。生涯で心に残る人の一人だと思います。人との出逢いって、本当に不思議なものですね。大切にしたいものです。



里親になって1年

大森寿美子



昨年、2006年7月に中国女子学生2人、ネパール男子学生1人の里親になりました。女子学生2人は受験勉強と日本語会話のため月3-4回、ネパールの青年は不定期的に自宅に立ち寄りました。今春中国の2人は東京の私学大学院、大阪の公立大学にそれぞれ入学しました。ネパールの彼は千葉市の専門学校の試験を受けようかと相談に来たのですが、学校をインターネット上で探したというので、寄宿先の決まっている東京から千葉までの所要時間、交通費、アルバイトの必要性他諸問題を考えた上、再検討するように勧めました。結局私の知人が勤務する国際的ホテルチェーンが新人を採用する学校数校の中の新宿にある1校に入学しました。彼は満足して順調に学生生活を送っていますので、進路決定の助けになれたと喜んでます。

私は一人暮らしの71歳で、家族パーティをする、すき焼きに招待するという企画は考えていません。ただ若くてドイツに留学したとき、また定年退職後ローマで約9年暮らしたとき、親しくなった人たちが折に触れて手を差し伸べてくれて、それが嬉しくて有

難かった。その経験から里子たちにも必要に応じて力になる、相談に乗るというスタンスで里親を続けるつもりです。今年はオーストラリア、中国、モンゴルの学生、昨年来の学生1人、計4人のお世話をすることになり、加えて別の2人の学生にも関わってあげたく手一杯だったところ、高校時代の友人が手を貸してくれることになりました。彼も最初は国際交流!里親としての責任!とても僕には荷が重いと逡巡していたのですが、対面の会で里親に紹介されてはにかむ子供たちの初々しい姿を見て、直ちに入会を決断してくれました。彼の協力を力に、勉学意欲に燃える、健気な留学生たちの支えになりたいと思っています。



2007年対面の会 アンケート

● 里子の声 ●

Q1 今日の出会いの印象は？

- たいへんうれしかった。
 - 温かくて、楽しかった。
 - 里親のみなさんは非常に親切です。
 - 大家族でにぎやかな感じがとてもうらやましかったです。
- I think this program is very important for students. Foreign students can learn more about Japanese cultures and living styles, and in future can develop a good relationship between people & may be societies.
- このプログラムは、学生にとって非常に重要だと思います。外国人の学生は、日本の文化と習慣について学ぶことができ、これから、人と社会の良い関係を育むことができると思います。

Q2 里親とどんな事をしてみたいですか？希望など。

- 大阪のいろいろな事を知りたい。
 - 日本の文化・習慣を知りたいです。
 - 一緒に山登りやスポーツをしたいです。
 - 日本のお祭りや季節の行事に参加したい。
- I hope we can establish a good relationship with our host family. To learn more about Japan & teach something about our cultures & behaviours & history.
- 私たちのホストファミリーと良い関係を築くことを願っています。日本について学び、私たちの文化・ふるまい・歴史について知って頂きたいと思います。

Q3 「留学生さとおやの会」へ望む事。

- 対面の会が時々あればいいと思います。
 - もっとイベントをして欲しいです。
- I hope I learn more Japanese & living style in near future.
- 近い将来、より多くの日本語と生活スタイルを学びたいです。

● 里親の声 ●

Q1 今日の出会いの印象は？

- 楽しい出会いでした。
 - 日本語がじょうずでびっくりしました。
 - まじめそうな学生さんでよい印象でした。
 - たいへんフレッシュな気持ちになりました。
- さわやかで優秀な好青年です。
 - 大学院(経済)への入学を目指してがんばっているとのこと。勉強の邪魔をしない範囲で交流したいと思っています。
 - 真面目で誠実な子供で対面できて嬉しかったです。

Q2 里子とどんな事をしてみたいですか？希望など。

- 自宅に招待したいです。
 - 食事をしながらよもやま話。そこから日本の家庭の姿を実体験してもらえたらいいと思う。
 - いろんな所へ連れて行ってあげたい。
- 食事をしながら、いろいろな話をし、日本語の能力向上に役立つような企画を考えたいと思います。
 - これからメールで通信して色々な交流をします。
 - 一緒に勉強していきたいです。

Q3 「留学生さとおやの会」へ望む事。

- あまり構えず普通の付き合いをしていきたい。
 - 学生の後の状況把握ができればいいと思う。
- 里親としての経験がありませんので、気を付けなければいけないこと、してあげると喜んでもらえること等ご指導下さい。

ご協力ありがとうございました。

里親の想い

世界が広がる里子との出会い 比嘉松子

私はこの会に参加させて頂き2年を経過しただけですが、里子との出会いの中でとても学ぶことが多く、有難く感謝しております。

前々年度のケイ・ケンさん(内モンゴル・20才女子)、そして前年のワン・ホウさんとは情が移り今も密度の濃い親子関係で繋がっております。千葉の大学に進学したケンさんは現在2回生、日本語スピーチコンテストで「私のおばあさん」と言うテーマで私のことをスピーチし準優勝、そのCDを作成、5月にそれを持って大阪へ会いに来てくれました。感動の余り涙した次第です。一年ぶりの再会で元気はつらつとしたその成長振りに目を奪われました。今現在も時々何かあった場合必ず報告連絡があります。一方、ワン・ホウさん(遼寧省・25才女子)はケンさんと違い母国で大学を卒業後来日、日本語を更にマスターしこの4月から兵庫教育大大学院の聴講生として来年の正式な入学を目指し頑張っております。二人ともとても気持ちの優しい子で、先日もホウさんが夜中の1時まで(スーパーのレジ係)のアルバイトをしていたのを本気で叱り、やっと私の言い分を理解してくれ11時までに留まった所です。そして彼女から5月の「母の日」に食事の招待を受けました。その時、子供を持ったことのない私にたくさんの赤いカーネーションの花束を頂き、感無量で中華料理をご馳走になりました。これは私にとって終生忘れることのできない思い出となるでしょう。

私はこの里親制度の重要性を意義深く感じておりその責任度はとても高いものがあります。特に留学生の受け入れは異文化理解の問題、言葉の壁に阻まれるコミュニケーションのとり方等々、とてもデリケートな問題が多々あります。丁度私の職場は留学生が600人近くおりますので、折に触れ様々な出来事に遭遇し勉強させて頂いております。この出会いの中で彼・彼女達は日本で様々なことを学び、感じ、

それぞれの将来の夢や希望に向かって歩いて行く若い人達のその成長に、どのように私達は関わり支援して行けるか、大きなテーマではないかと思っております。また、周知の通り1983年に政府が打ち出された留学生数「10万人計画」の策定は20年がかりで達成、そして今回政府の教育再生会議での大学改革を話し合う分科会等で、日本の大学・大学院で学ぶ留学生数を現在の約10万人から2025年に100万人に増やす目標を掲げる事を決めたとの事(日経新聞より)。これは大学・大学院の国際化を進めて国際競争力を高めるのが目的とされているそうです。

私達のできる範囲で小さな事から、日本を留学先として選び向学心に燃えた若い人達に少しでも支援できればと願っております。



■ 昨年の遠足にてワン・ホウさんと



■ 2005年の対面の会にてケイ・ケンさんと

● 編集後記 ●

編集局長 田間貞雄

留学生さんとおやの会の「里親・里子だより」の第七回発行の原稿を里親・里子の方々からお寄せいただきまして有難うございました。第7回の発行より、今回で七回目の発行となります。振り返ってみますと、前の大阪商工会議所の留学生事業と比較しても、何ら遜色の無い里親・里子の事業を継承しております。これは、ひとえに里親の皆様の献身的なボランティア精神の努力と、サクラクレパスの西村代表幹事・八木先生を中心として各幹事の皆様のご尽力によるものと感謝いたします。また、里子の方々の協力のおかげでもございます。これから、第八回の里親・里子だよりの発行に向けて、里親や里子の方々の皆様に沢山の原稿やお写真、そして有意義なアドバイスやトピックスなどをお寄せいただきますようお願いいたします。里親と留学生との絆はこれからもいつまでも続き、終わることはありません。この事業が広く地域の皆様にご理解をいただくために、出来るだけ早く次回の会報の発行を考えております。